

4/14 日(木)に発生しました熊本地震におきまして災害に遭われた地域の皆様、お怪我をされたり避難を余儀なくされておられる被災地の皆様に、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧を祈念申し上げます。

現地から生の状況が発信されるようになり、現地の救難活動やインフラの維持や復旧に夜を徹して尽力しておられる方々には、深甚なる敬意を表したく思います。当事者の皆様のご要望が刻々伝わって参るにつれて多数のエコノミークラス症候群の発生も伝えられています。これを受けて現地もしくは現地入りした日本超音波医学会会員の皆様も、現地の方々のご苦勞を共有し現在深部静脈血栓症の検査など対応に追われているところです。

本学会としても 2011 年の東日本大震災時と同様今回も現地の医師の要請に基づき、超音波装置に関しては本学会の事務局を各学会のご協力のもとに窓口として各メーカーよりポータブルエコーを手配し、現地へ搬送の準備を進めているところです。現時点で 3 社より計 8 台～10 台の装置を確保し一刻の猶予も争う状況の為 4 月 20 日には本学会事務局員 2 名が現地に搬送を行いました。

今後本学会会員の皆様にも個別にご協力をお願いすることもあるかと存じますので学会からの被災地支援の状況を緊急メッセージさせていただきました。皆様宜しく御願いたします。

2016 年 4 月 20 日

日本超音波医学会理事長 工藤正俊